

平成25年度 第1回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会（会議録）

- 日 時 平成25年9月27日 午後1時30分から
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター 3階 大会議室
- 次 第 (1) 平成24年度保健事業の実施事業について
(2) 平成25年度新規事業・重点事業について
- 出席委員
鈴木伸男（会長）、千田洋子（副会長）、荻原聡、本間美香、松田徹、山本信孝、七森玲子、中里慶三、秋山美紀、佐藤しおり、荒澤和子、後藤輝夫、今野和恵
- 欠席委員
小池正純、伊藤亜紀子、野口美佐子、齋藤勝、五十嵐雄次郎
- 市側出席職員
健康福祉部健康課長 原田真弓、同課課長補佐 白幡俊、同課課長補佐兼保健指導主査 上野峰、同課母子保健主査 小林まゆみ、同課成人保健主査 増田富美子、同課成人保健主査 碓氷ひろ子、同課成人保健主査 門脇豊、同課高齢保健主査 金内節子、同課高齢保健主査 齋藤恵美、同課保健総務係長 小林学
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0人

1 開 会

健康課長 皆様、本日は大変お忙しい中を参席いただきまして大変ありがとうございました。まだ、お一人ご参加がまだ遅れているようではございますが、定刻になりましたので、ただいまから、鶴岡市健康なまちづくり推進協議会を開催させていただきます。暫時の間、進行を務めさせていただきます健康課長の原田と申します。どうぞよろしくお願い致します。開始にあたりまして、ここで選出団体の人事異動等に伴いまして、新たに選任をされました委員の皆様をお手元の名簿順にご紹介をさせていただきたいと思っております。はじめに鶴岡市小中学校養護教諭部会部会長の本間美香委員でございます。続きまして、庄内労働基準監督署安全衛生課長の山本信孝委員でございます。ご三人目、最後になりますが、鶴岡市健康福祉部長の今野和恵委員でございます。新委員の皆様には、任期が残任期間ということで、来年3月31日までとなっておりますので、どうぞよろしく申し上げます。それでは次第にありますように会長あいさつということで、鈴木会長よりごあいさつをお願い致します。

2 会長あいさつ

鈴木会長 皆さん、こんにちは、お久しぶりでした。昨日、実は朝、健康課課長補佐の白幡さんが私に今日の進行について、打ち合わせに来られました。真っ先に言われたことは、今日、会長あいさつの願いでした。とっさにあることをぜひ言いたいと思ったのです。ただ、昨日の段階でその内容、決まっていなかった。皆さん想像がつかますでしょうか。野球、野球に関心ある方、ない方もいらっしゃると思いますが、二つの条件があるのです。楽天が勝つ、2位のロッテが負ける、昨日、そういう思いで、これが実現すれば今日も話しやすいとテレビを見ていました逆転優勝。ロッテもはじめリードしたわけですが、逆転で負けた。大変思いどおりの展開になり、こういうあいさつができるという次第でございます。日頃のひいきチームはいろいろあるかとは思いますが、楽天イーグルスの優勝は、東日本大震災の被災地の人たちに大きな勇気を与えたということです。大きな意義があろうかと思いました。正直言うと私は別のチームのあれで、そのチームは先週といたしますか、5日くらい前に優勝したのですが、マスコミもテレビも新聞も取り扱い方は倍くらいで扱った。私、実はそういう意味ではひがんでいるのです。冗談はさておき、今日、レジメに従いまして3時までの1時間半というあまり長くない時間の予定のようでございますので、皆さん、スムーズな進行にご協力いただきまして、実りある会にさせていただければと思っております。どうもありがとうございます。

健康課長 鈴木会長さん、ありがとうございました。それでは、次第の3以降につきましては、設置要綱第6条の規定に基づきまして、鈴木会長さんより進めていただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いを致します。

3 報 告

会長 報告は事務局からやっていただくわけで、資料は皆様のお手元に前もってお配りした平成24年度保健事業の実施状況でございまして、順次、担当の方に説明をよろしくお願ひ致します。

(1) 平成24年度保健事業の実施事業について

事務局 (説明)

鈴木会長 これでは保健事業の実施状況は終わりました。それで今度は資料が別になりまして、平成25年度新規事業・重点事業についての説明よろしくお願ひします。

(2) 平成25年度新規事業・重点事業について

事務局 (説明)

鈴木会長 以上で予定の報告・説明が終わりました。大変スムーズにスピーディーに説明していただきました。最近よくわかったことは、市当局といいますか、健康課では多岐の分野において大変アクティブに取り組んでおられたことが、よく分かりました。細かい点はこれを復習し

ないとちょっと分かりかねると思いますが、委員の皆さんにはなお復習の意味も込めて、この資料を帰ってから読んでいただきたいと思います。予定の3時まではあと約30分足らずあります。ぜひ皆さんから質問していただいて、理解を深めていただけるといいのですが、どなたか質問ありますでしょうか。いっぱいあると思うのですが。私から足がかりとして質問させていただきます。1ページ、虐待の話がありました。テレビを見ても、あるいは新聞を見ても、やっぱり大事件として虐待が大きく報じられます。どうも望まない出産といいますか、例えば二十歳前のお産とかですね、あるいは生活が困った場合のお産とか、の場合が多いような、新聞等を見ますとそんな感じがしますが、ところで、当地域といいますか、鶴岡におけるそのような状況というか、実情はどうか、どなたかわかりますか。お伺いしたいと思います。

小林母子保健主査 ただいま会長さんがおっしゃられた望まない出産だとか、リスクが高いであろうと見ている妊産婦さんに関しましては、先ほどお話ししました母子健康手帳の交付のとき、要は妊娠届書というものをお医者さんからもらって来て、母子健康手帳を「にこふる」の方にもらいに来るといふ仕組みになっておりますけれども、そこに来た方々には、私たちが顔が近づきますので、10代の方だったりとか、未婚の方には、早期に電話で関わったり、あるいは家庭訪問しています。母子手帳をもらいにくる方は私たちもわかりますが、そうでない方、出産後に母子手帳をもらいにくる方が平成24年度は分娩後3件、平成24年度は出産した後に母子手帳をもらいに来た方は数人おりました。やはり望まない、本当は欲しくないのだけれども出産してしまったというような、出産後にもらう方も決して少なくはないです。毎年2人か3人いるような状況があります。そういった状況であるのと、虐待ということがありましたので、虐待の窓口は、鶴岡市の場合はこの「にこふる」の2階にある子ども家庭支援センターが窓口、主幹課になります。その報告書によりますと、市で受けた相談件数とその相談件数で虐待と認めた数というのが出ておりました。せっかくの機会ですので、その数を今申し上げます。市で受けた相談件数が、平成22年度は41件、そのうち虐待と認めた数が20件、平成23年度は市で受けた相談件数は36件、そのうち虐待と認めた数は20件、そして平成24年度は相談件数が33件で、虐待と認めた数は16件というような報告となりました。これは鶴岡市で受けた件数ですので、児童相談所さんとかで受けた数はまたプラスになるとは思いますが、児童相談所長さんのお話でも全国的にも山形県内でも相談の虐待と認定された件数は増えているということはお話を伺っております。

鈴木会長 虐待死というのは結構ありますか。死につながる虐待。

小林母子保健主査 鶴岡市では、わかりません。

鈴木会長 それから、予防接種の話がありました。接種状況はだいたいわかりましたが、予防接種の対象になっている、12ページに書いてあります、ジフテリアとかそういうものの発生状況はどんなものでしょうか。市の方でもいいし、松田先生もおられます。どちらでも結構です。だいたいいいです。

松田委員 ジフテリアはもう国の中でほとんど出ていません。平成 11 年以降は出ていません。それから破傷風が庄内一円で 1 人です、全部で。それから百日せきが 1 です。麻しんは、去年は風疹が 2、庄内全域です。鶴岡に特定できませんので、これが結果です。

鈴木会長 あまり多くはない。

松田委員 このくらいで、結核が 23 くらい。

鈴木会長 結核は毎週の報告を見ても 1 人、2 人はあるようですね。それからポリオは。私の大学の同級生に 2 人ほど足のマヒがいたのですが、今、ポリオというのはあるのですか。あまり見かけないですよ。

松田委員 全国的にも 1 から 2 くらいです。

会長 ありがとうございます。それから、子宮頸がんワクチンのことについて、先ほど説明がありました。勧奨ではなく、逆にあまり勧めないという、平成 25 年の初め頃からその方向になったようで、その前はむしろ強制的にみたいな印象があったのですが、勧めないということになってからの接種状況はどんなものでしょうか。

小林母子保健主査 今年の 6 月 14 日に国の方から通知が来まして、それ以降になりますけれども、中学生 1 年生だけの数で見ますと、4 月から 7 月まで 581 人中 141 人接種をしておりました。率としては 24.2%です。6 月 14 日に通知があったわけではありますけれども、4 月から 6 月、4・5・6 の 3 ヶ月間、月平均 48 人受けておりましたが、7 月は 3 人の接種でした。全体的に見ても 7 月の接種は全年齢でも 4 人しか接種していない。控えているという状況は変わりません。

鈴木会長 松田先生、今副作用の点からだけ捕らえているわけですが、子宮頸がんの発生ことを考えると、本当は接種した方がいいのでしょうか。

松田委員 なんとんでもやっただいて、子宮頸がんを撲滅したい。ただ、症状が非常に強く出てきますので、今のところは積極的な勧奨を控えるということで仕方ないです。将来的には、やはり何とか復活してもらえないと。

鈴木会長 ありがとうございます。私だけ質問してあれですが、どなたかおりませんか。

秋山委員 先生がおっしゃったように本当に細部にわたる事業を各課が一生懸命にされていて、本当に実施実績に対しては素晴らしいと思いました。みなさんのご苦勞に敬意を申し上げます。その上で、その事業を実施する真の目的というか、そのアウトカムの部分ですね。例えばですけども、がん検診にこれだけいろいろな工夫されてキャンペーンとかされているのですけれ

ども、健診の受診率が減少傾向にあるとか、あるいは国保ヘルスアップなども、糖尿病の精検の受診率をみても毎年どんどん下がってきているということで、事業実施していることがなかなかアウトカムにつながっていないというあたりをどのように分析されているのかということをお教えください。

増田成人保健主査 大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。担当者4名でこのがん検診については対応しているところですが、なかなか、私たちもこれだけやっているのに、どうしてアウトカム、指標といいますか、結果につながっていないのかなというところがとても残念なところでもあります。受診率という考え方についても評価が必要と思っていますが、同じような規模の自治体で、受診者数も鶴岡市の方が多いにもかかわらず、対象者の考え方で低くなったりすることもありまして、受診率だけにとらわれずに数を伸ばしていきたいと考えているところです。できるだけその数が伸びていくための働き掛けは何が必要かということで、できれば若い方、働き盛りの方の健康、命を守っていくことを一番重点に据えていくということで、働き盛りのアタックとして昨年度から、事業の報告書には載ってないのですが、企業訪問なども行っています。広くいろんな方に興味を持っていただくというようなことを、まず取掛かりとしてやっていかなければならない、ということを感じています。糖尿病の方の精検受診率が上がらないのは、やはり糖尿病は自覚症状が出にくい、痛くもなければ痒くもないため、なかなか健診を受けるという仕組みを高めていくことが難しいところがあります。鶴岡市の回報書活用事業といいますのは鶴岡市独自の事業で、これがないとなかなかアタックしづらいところがありますので、こちらの方は有効に活用していきたいと思っています。

秋山委員 私自身もすごく悩んでいるところなのですけれども、啓発とか教育についてですが、全般的に全部の分野、共通すると思うのですけれども、講演会とかキャンペーンって、どうしても予算があって実施するとか、集客数とかということに目がどうしてもいってしまうのですけれども、やること、実施すること、集客することが目的ではなく、その先にある意識が変わるとか、行動がこう変わるということも、なんとか特定していきたいですし、それが成果として出たということを示していけると、いいなと思っていますので、引き続きよろしくお願ひします。そうした意味で感激したのが、8020運動で、90歳を過ぎて20本も歯がある方がいらっしゃるというのが、高齢化が進んでいる中で、健康なお年寄りが増えているのかなということも大変うれしく拝見させていただきました。

後藤委員 連休前にいただいて、今日まで学習してくるよという願ひを込めているだろうと思って、資料を読ませていただきましたが、タイトルの実施状況ですが、文言にしなくとも、資料の説明よりは、全体としてこれだけご苦労されている保健行政の成果と課題、とくに課題の説明をいただくこと、一人ひとりの健康にという素人を代表している私の発言です。そのほかの方々、専門分野の方々ですので、私は特にそこに関心を持っておりました。とくに成果と課題の中で、全市的なもの、あるいは旧鶴岡行政区が他の旧町村よりもパーセンテージにしては低いところがある。あるいは、朝日地区が健康教育事業の中で、骨粗しょう症や病態別に課題といいますか、こういうところが突出している数字が現れているわけですから、関連し

てこれが1番目の問題であります。次は41ページ以降の健康づくり啓発事業と、平成26年度のことについてであります。平成25年5月29日に千葉県木更津市と競争した健康ウォーキング大会、あれに私も呼ばれたのですが、だいたい、その日のしかも時間が指定されて、ほかの事業や会議と重なって、出来る時間は24時間中ありませんでした。そういうわけですが、とくに健康づくり啓発事業で、平成24年10月に健康ウォーキング大会をなさっておられますが、平成26年度以降は市長さんがやるのか、教育委員会の体育の方がやっていくのか、皆さんの方に呼掛けていないこと自体が問題だろうと思って見ていたのです。短期間のうちにとにかく実施するという事ですから、散々な数値ですね、実施状況は。今日はここでアピールする必要はないのですけれども、今後、ああいうことをやるとすれば連携して、独自にやっているものの時期を調整するとか、という取組みも考えられるのではないかと、ということをお考えしております。それから、こころの健康づくりの問題で、重点地区として3、4学区以下出ておりますけれども、これはその地区が名乗り出ているのか、それとも行政側が実態に基づいて促してやっているのかという点です。意外と近隣にも青年層が就職できないために引きこもっているという実態が最近耳に入ってきました。そういうことから、これらが年度毎に変わっていくのか、あるいは実態に応じた対応でやっているものかという関心を持っているところであります。最後に、高齢者を代表しまして、肺炎球菌予防接種を受けまして、こういうこともこの「にこ♥ふる」に来て皆さんと接触すれば、こういうことに取り組んでいることに、耳に入り、目に入り、そして実施するということになるので、今後ともそういうことで一生懸命やっていたらありがたい。

鈴木会長 後藤先生は教育者でいらっしゃると思いますので、おそらく予習をしてこいと生徒には言われてこられて、それを先生自ら実行された。大変敬服しております。先生からいくつかの提案とかがありましたが、何か答えをもらうようなこともありましたか。提案ということでお聞きしてよろしいですか。

後藤委員 予習をしてくるようにとは書いてありませんでしたが、学習意欲に燃えた人ばかりなので、みんなやってきても心に秘めておられるのだなと、答えも自ずと言わなくとも、一を知って十を知る人ばかりのようでもありますので、期待するのみです。

鈴木会長 佐藤しおりさん、今の後藤先生に何か追加は。

佐藤委員：せっかく機会をいただきましたので、日頃こうなったらいいなと思っていることを提案させていただきたいと思っております。最近の子どもの運動量が減っていることで、20年前と比べて5歳児の運動量が3分の1くらいになっているという報告もありました。それで、乳幼児期からの親と子の関わり合いによって運動量が増えたり、減ったりするのではと感じているところもあって、同時に乳幼児期のスキンシップに代表されるような母子の関わりのお大切さというもの、そういうものを伝える機会とかイベントは最近たくさんあると思うのですが、実際それが必要な方たちが本当に来ていてくれているのか。いつも同じようなメンバーだったりして、どの会議でも来ている方々で、本当に伝えたい方が来て下さっているように感じてないので、

来ていない人に伝えたいと思うことがすごく多いのです。せっかく 100%に近い乳幼児健診の受診率があるので、そのような機会に子どもとのスキンシップ、ベビーマッサージみたいなものとか、子どもの運動の大切さ、親が語りかける大切さのようなものを伝えられたらいいな、そんな機会があったいいなと、パパママ教室の時でもいいかと思うのですが、そんなことを感じておりました。機会がありましたら、ぜひ、お願いします。

鈴木会長 鶴岡地区医師会で松田先生が音頭とりをして、大腸検診のあることをこれから進めようとしておりますので、音頭とりの松田先生からお願いします。

松田委員 鶴岡市が一生懸命やられている大腸がんの検診なのですが、検診の精密検査、陽性だったりしても受けない人が結構いらっしゃるのですが、地域の中では上げてこられました。それでもまだパーフェクトではない。陽性であっていながらもまだ受けていない人がかなりいて、リスクが高い。これを何とかしようということを、医師会の中でやりましょうよということで、市、それから保健所、健診センター、様々なところと一緒に、東京にある NPO にもお金を出していただいたり、相談に乗っていただいたりして、がん検診ちゃんと受けようよというキャンペーンを今年から始めています。近いうちに、小真木原の健康のつどいにも出しますし、様々なイベントでスポークするというのがポイントなのですが、先ほど秋山先生がおっしゃったように、イベントやったからうまくいくわけでもない、ポスター作ったからうまくいくわけでもない。ということで、なるべく市民全体の話ということでいこうと思っていますので、ことに職域で、会社で受ける人たちですね、精密検査の受診率が 60%くらい、こんなんじゃ検診しない方がいいでしょというくらいになるわけですが、これをどうやって上げていくかということを中心にして検討しますので、皆さんご承知おきいただきまして、目にふれるようなメディアにいろいろ情報を流すなど、いろいろしますので、どうぞ注目していただければ幸いです。近いうちだと、山形新聞が 9 月 30 日に第 1 番の精密検査の件の深い部分を載せてくれることになっていて、そんなところですよ。

鈴木会長 がん検診にもいろんな臓器のがんがありますが、何しろ大腸がん検診は便の潜血反応を調べる一番簡単な検診方法です。ぜひ、今、先生、おっしゃいましたようにご協力といえますか、ぜひ、協力できればと思っています。最後の質問、44 ページ、環境衛生対策というところで、こういう会議があると必ずタバコの問題が出てきていたのです。タバコの問題が一切出てこなかったのですが、これはもうあまり問題にしなくてもいいようになったのか。まだまだ問題点が私は大いにあるかと思っていますのですが、この項目の中には環境衛生対策と書いてあるのですが、たばこのことが無いのですが、今後の課題としてどういうふうにするのか、まだまだタバコ問題は終わっていないと思いますが、もし、お答えいただければ。

門脇成人保健主査 鶴岡市では、受動喫煙防止推進会議というものを設置して、公共の施設の受動喫煙防止に取り組んできまして、それは今回新規とか重点事業にはなっていませんでしたので、載ってはいないのですけれども、それはずっと取り組んできていまして、平成 24 年度の実績では 236 施設が屋内禁煙・施設内禁煙になっているということで 88.7%という状況です。

残りについても個々に対応をして、なんとか100%にもっていけるようにということで取り組んでおります。また、今回、今年、企業訪問ということで、がん受診向上対策の関係で、事業所を回らせていただいたのですけれども、その時も職場の受動喫煙の状況がどのようになっているかということも併せてお聞きしたり、チラシを配って啓発したりということも致しました。

鈴木会長 まだ課題は残っているというわけですね。何かの会で発言したことがあるのですが、そういう会社とか、ちゃんとしたところは進んでいますよ、飲み屋なのですよ、どうも飲み屋に行くと灰皿があるものですから、灰皿があればタバコを飲んでもいいと、医者もそうなんです。医者でさえもそういうところで、やっぱり外に出てもらうのが、私礼儀だと思うのですが、ですから、タバコ問題はまだまだ終わらないということで、よろしく願いいたします。では、質疑はこれで終わります、その他という項目があるので、その他というのは何かあるのですか。

4. その他

白幡課長補佐 とくにこちらの方では準備しておりませんが、今回、山形県の労働衛生2013をいただきましたので、もし、少しご説明があれば、山本委員、お願いしたいと思います。

山本委員 庄内労働基準監督署の山本でございます。この会議の方に顔を出さずにいたのですけれども、私も4月から来て、文書を見て顔を出すのが先かなということで、他の会議も含めて顔を出させていただいているところでございます。先日も松田先生の保健所さんの会議の直前、9月3日の山形新聞に山形県の職域の健康診査、50人以上のものなのですが、全国ワークスト4というようなことで、松田先生からもどうなっているのだとお叱りを受けたところですが、健康診査につきましては、私も寒河江市に住んでおりますけれども、地域からも職域の方の対しても健康診査のご案内が来ますけれども、職域の方は職域の健康診断を受けている部分があって、なかなかがん検診まで行きついていないのかなと思っているところでございます。内容的には全国ワースト4ということで、全国平均からするとだいたい7ポイントくらい多いというような傾向になっているわけですが、10年前は10ポイントほど多くなっていたのですけど、全国平均がだんだん徐々に山形県に近づいているところが、健康診断の状況なのかなと考えているところでございます。また、職域、先ほど松田先生からも大腸がんの問題もありましたが、あくまでも法律からすると、職域の方は健康診断結果については医師の意見を聞くということになっておりますので、この会議を契機に、事業所を指導する際にはキチンと医師の意見を聞いてくださいとお願いをしていきたいと思っているところです。また、11ページですね、先ほど鈴木先生の方からお話がありましたが、受動喫煙についてです。労働基準監督署の方でも少しはお金が出せる仕組みになっておりますので、何かPRする機会がありましたら、山形の労働局の方にお話をいただければなと思っております。最終の12ページ中段にメンタルヘルスということで、支援センターということで、うちの方も載っておりますけれども、国が進める自殺予防大綱に基づく施策ですので、このへんは職域とか地域を関係なく、様々な機会をとらえて、我々もメンタルヘルスまたは自殺予防について取り組みをやっていくということ

で、今、取り組んでおりますので、皆様の方からもご協力いただければと思っております。

鈴木会長 ありがとうございました。今のご説明に対して何か質問・ご意見ございますか。なかったら、その他のところはこれで終わるので、私の仕事を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

5. 閉会

健康課長 委員の皆様、鈴木会長様、熱心なご審議ありがとうございました。いろいろご助言いただきましたこと、保健行動計画を今取り組んでおるところでございますけれども、なお一層現場の方で生かさせていただきたいと思っております。誠にありがとうございました。それでは、本日は若干の時間延長いたしました。これを持ちまして終わらせていただくこととなりますが、今年度中に第2回を開催予定しております。また、別途ご案内申し上げたいと思っておりますので、それまでの宿題もいただいた形になっておりますので、どうもありがとうございました。それでは、これを持ちまして閉会させていただきます。ありがとうございました。